

平成23年度

沖縄県海外留学生修了報告書



沖 縄 県

財団
法人

沖縄県国際交流・人材育成財団

はじめに

沖縄県海外留学生受入事業は、沖縄県出身移住者の子弟及び歴史的に繋がりの深いアジア諸国から優秀な若者を県内の大学で修学させ、日本・沖縄の文化を理解し県民との交流を深めてもらうことにより、本県と移住先国及びアジア諸国等との友好親善の推進に寄与する人材の育成を目的としています。

昭和44年度（1969年）の事業開始以来、本年度を含め575人の留学生を受け入れてきました。本事業を修了し帰国した留学生OBは、沖縄で習得した知識と経験を生かし、様々な分野において活躍しており、また、県人会活動にも積極的に参加するなど、母国と本県とのネットワーク拡充に貢献しております。

平成23年度は、カナダ1名、南米8名（ブラジル2名、ペルー2名、アルゼンチン共和国4名）、アジア1名（中国1名）の合計10名を受入れ、そのうち5名が琉球大学、1名が沖縄県立芸術大学、1名が名桜大学、3名が沖縄国際大学において勉学等に励みました。

今年は、半年間という短い留学期間となりましたが、「第5回世界のウチナーンチュ大会」をはじめ、様々なイベントにおいて、沖縄県民だけでなく、海外の多くのウチナーンチュとの交流を通して、沖縄の歴史や文化等について深く学ぶとともに、ウチナーンチュとしてのアイデンティティーについて強く感じるものがあったのではないかと思います。

この報告書は、留学生が沖縄滞在中に感じた日本・沖縄に対する率直な意見や感想、大学での修業成果等をまとめたものです。学内スピーチ大会や課外活動、沖縄での親戚や友人等との交流など、様々な経験を経て成長していく姿を垣間見ることができると思います。本書が、当事業理解の一助となれば幸いです。

最後に、本事業実施に当たり、留学生を受け入れていただきました琉球大学、沖縄県立芸術大学、名桜大学、沖縄国際大学並びに関係者の方々に対し、心から感謝申し上げます。

平成24年3月

沖縄県文化観光スポーツ部長

平 田 大 一



平成23年度 沖縄県海外留学生修了式 平成24年3月15日 於・サザンプラザ海邦

金武財団理事長表敬 平成 23 年 10 月 7 日 於：財団 3 階ホール



上原副知事表敬 平成 23 年 11 月 21 日 於：県庁 6 階副知事室



目 次

○海外移住者子弟留学生(9名)

・ 県費留学最終報告書	新井 春樹 スティーブン ……………1
・ ただいま	平良 比嘉 グスタボ 平治 ……………4
・ 次の時代へ	上原 エリカ 里美 ……………8
・ うちなーでの経験	高良 カロリーナ ……………14
・ 未来への架け橋	稲福 フェルナンド ガブリエル ……………20
・ わんねー、ウチナンチュー	内間 屋比久 パウラ ダニエラ ……………25
・ 沖縄で過ごした経験	ネウマイエル ビクトリア ラウラ ……………28
・ 伝えきれない体験	サラサル 仲間 ラファエル きよし ……………31
・ 沖縄っという絆	輝也 セバスティアン ……………35

○アジア諸国等海外留学生(1名)

・ 短くて長い4ヶ月半	黄 鶯 ……………39
-------------	-------------

平成23年度 沖縄県海外留学生名簿

<p>^{あらい}新井 ^{はるき}春樹 スティーブン</p>  <p>出身地：カナダ</p> <p>琉球大学 共通教育等 科目等履修生</p>	<p>^{うちま}内間 ^{やびく}屋比久 パウラ ダニエラ</p>  <p>出身地：アルゼンチン</p> <p>沖縄国際大学 日本語・日本事情 科目等履修生</p>
<p>^{たいら}平良 ^{ひが}比嘉 グスタボ ^{へいじ}平治</p>  <p>出身地：ペルー</p> <p>琉球大学 共通教育等・工学部 科目等履修生</p>	<p>ネウマイエル ビクトリア ラウラ</p>  <p>出身地：アルゼンチン</p> <p>沖縄国際大学 日本語・日本事情 科目等履修生</p>
<p>^{うえはら}上原 エリカ ^{さとみ}里美</p>  <p>出身地：ブラジル</p> <p>琉球大学 共通教育等 科目等履修生</p>	<p>サラサル ^{なかま}仲間 ラファエル きよし</p>  <p>出身地：ペルー</p> <p>沖縄国際大学 日本語・日本事情 科目等履修生</p>
<p>^{たから}高良 カロリーナ</p>  <p>出身地：ブラジル</p> <p>琉球大学 共通教育等 科目等履修生</p>	<p>^{てるや}輝也 セバスティアン</p>  <p>出身地：アルゼンチン</p> <p>名桜大学 日本語・日本事情等 科目等履修生</p>
<p>^{いなふく}稲福 フェルナンド ガブリエル</p>  <p>出身地：アルゼンチン</p> <p>沖縄県立芸術大学 琉球芸能専攻 琉球古典音楽コース 科目等履修生</p>	<p>こう 黄 ^{おう}鶯</p>  <p>出身地： 中華人民共和国</p> <p>琉球大学 法文学部 科目等履修生</p>

県費留学最終報告書

新井 春樹 (カナダ)

まずは沖縄県国際交流・人材育成財団の人達に感謝を言いたいと思います。財団の皆さんがいなければ沖縄での留学は不可能でした。この半年間の留学生活で学んだ事を報告したいと思います。

最初に一番話しやすいのは学校で学んだことです。私の場合正式な教育は琉球大学で受けました。琉球大学で受けた授業の数は六つ。日本語IV A, 日本語IV B, 日本語IVC, 日本語VI、日本事情IIと沖縄事情IIの六つです。簡単に説明したら日本語IVと分類される授業は日本語能力を高めるためにあります。日本語IVは文法、聞き取りと作文が中心に教えられます。日本語VIは現在の日本の小説を読みながら日本と沖縄の文化を学ぶ授業です。日本語事情IIは日本の文化を軽く学ぶ授業です。沖縄事情IIは沖縄の文化を軽く学ぶものです。

私は留学生の三組にいました。琉球大学は留学生達をどれだけ日本語が出来るかによって組に入れます。私は中級と判断されましたから三組に入れられました。日本語IVは三組が受ける授業で他は全ての組共同に受けます。つまり「A,B,C,」が付いている授業は同じ組の人達が受けます。

私が一番日本語IVのA,B,Cで学んだのは漢字の読みです。私が一番日本語で欠けているのは漢字です。嫌でも授業では漢字を読まないといけませんから日本語を読む能力が上がりました。文法や聞き取りは授業の範囲以上できてました。この三つで習ったのは漢字だけです。

日本語事情では日本の文化を学びました。私の両親は一世なので日本の事が詳しいです。沖縄に来る前に長年日本の文化に耐えしての知識を沢山持っていました。しかし細かい事や事情は知りませんでした。日本が六十歳の誕生日を特別にすることや畳みで踏んではいけないところがあることは日本事情の事業を受けて初めて知りました。この授業で学んだ事で一番好きなのは歴史です。ざっと卑弥呼から明治をたった一時間半の授業二つで習いました。多分歴史が一番印象的なのは寮の先輩達が手伝ってくれたからです。

沖縄事情ではもちろん沖縄について色んな事を習いました。授業では首里城や昔の王様の墓などに行きました。行った所の中で首里城がすごかったです。琉球、日本と中国と他のアジアの国の文化が混ざっているのが分かりました。首里城が琉球王国、つまり沖縄全てを代表にしているように感じました。もちろんオリジナルは戦争で破壊されましたが、それでもすごいです。立て直すとは沖縄の人達が強く自分達の文化を大切にしている証拠です。

日本語VIでは村上春樹や他の作家の作文を読みました。これが一番日本語能力を使う授業でした。ただ漢字の読み方と意味が分かるだけでは足りません。作文の内容も理解しなければついていけません。普通に八ページの作文とかを先生は出しました。先生はただ小説や作文の中の内容だけではなく、物語の舞台となっている日本の状況も説明してくれました。最後に私達は今はやっている「テンペスト」を読みました。この小説を読んでいる時沖縄の歴史や離島文化を学べました。正直沖縄事情より沖縄の事を学びました。

これまでは学校で習った事を書いてました。これからは教室の外で学んだ事について話したいと思います。

私は沖縄に住んでいるんな事が分かりました。知識で知っていても実際経験しないと本当に分からない事もあります。この半年間沖縄の人達と交流できました。来る前に知ってたのは沖縄の人達は親切で明るい。確かにそんな感じでした。沖縄の人達、方言ではウチナンチュウはお互いに対してとても優しいです。例えば道端で迷っていたら知らない人に道を聞いたら教えてくれます。琉球大学の食堂で自分の荷物をテーブルに置いて列に並んで帰ってきたら財布や携帯などの貴重品が全てあります。それには驚きました。

その上沖縄は地方によって違うと分かりました。沖縄にいる間宮古島と石垣島に行きました。すぐに分かる違いは方言です。私は最初沖縄に来た時沖縄は全部同じだと勘違いしてました。宮古島と石垣島の方言は全然違います。石垣島にも離島があり、私は他の県費留学生達と竹富島にも行きました。私は沖縄に来る前は沖縄は全て同じような場所だと思い込んでいました。実際他の島に行くとどれだけ自分が無知だったのか思い知りました。一つ一つの島の個性は素晴らしかったです。

しかし沖縄にいて知ったのは良いことだけとは限りません。個人的に私が反対しているのは沖縄の人達日本の本土を「内地」と呼ぶ事です。自分はそれが差別的で社会的な壁を作っていると思います。たしかに沖縄では昔から本土を「内地」と呼んでいます。今の世代がそれを続ける必要が無いと私は思います。沖縄の人が「内地」を使う時はまるで自分達と本土の人達の区別をしている風に感じます。そんな事を続けたら沖縄と本土の関係があまり良くなれないと思います。そのような態度を何とかしないとイケない、そう思います。

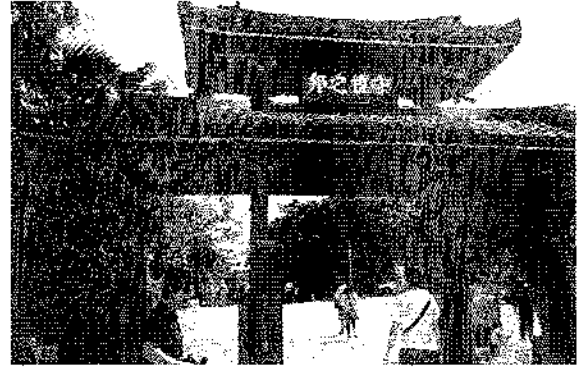
私は色々調べました。聞いた限り沖縄の人達は本土でも沖縄人同士集まるそうです。自分達は「ウチナンチュウ」で他が「ナイチャー」と見てる人も多いそうです。よく聞く話は本土の人達が冷たいと。確かに東京などの大都会で人は外ではあまり沖縄みたいに感情を見せません。だがそれで冷たいと判断する理由は私は分かりません。冬冬休み中私は東京に十日間いました。道に迷っている時知らない人に道を聞いたら親切に教えてくれました。東京の人が冷たいとは感じませんでした。

私の仮説なんですけど、東京が「冷たい」理由は色んなと所からの人が集まっています。よって沖縄ほど信頼感が無い、それは否定できません。でも東京では出身地を気にしませ

ん。別に京都でも北海道でも気にしません。沖縄と違い様々な人達と交流するのに慣れて
います、東京などの都会は。私はもし沖縄がもっと自由に生まれ育ちにの違う人達と交流
できたらさらに良い場所になると信じています。



留学生の三組との写真



首里城に行ったときの写真



竹富島の写真。琉球の伝統的な家



県費留学生達と石垣島に行ったときの
集団写真



寮の先輩たちと一緒にボーリングに行った時の写真

ただいま

平良 比嘉 グスタボ 平治

(ペルー)

私は平良 比嘉 グスタボ 平治と申します。ペルーから参りました。

私が沖縄に来るのはこれで二回目です。一回目は2009年のことでした。その時は、沖縄市海外子弟研修生として三ヶ月の間で沖縄の文化を学び、自分のルーツを知る事が目的でした。沖縄市研修生として来たとき私が初めて聞いた言葉はうちなーぐちで「ようこそ」を意味する「めんそーれ」でした。そして、今回 県費留学生として沖縄に着いた時、私は同じ言葉「めんそーれ」を待っていました。ですが、聞いた言葉は「めんそーれ」ではなく普通の日本語の言葉「おかえり」でした。「おかえり」、海外の日系社会でもよく使われている日本語の言葉の一つである、その聞きなれている言葉に私は何故か感動してしまいました。その「おかえり」の言葉は私にとって二つの意味がありました。一つは私は沖縄に来たことがあるので、それに対する「おかえり」。二つ目の理由は沖縄がウチナー子弟にとっての故郷だからです。このように、私の留学生活は「おかえり」と言う言葉で始まりました。



沖縄での留学生活で私は大切なことをたくさん学びました。その学んだことの中で、特に大事な三つのポイントを皆さんに紹介します。

一つ目は「コミュニケーションの大切さ」です。この半年間、私は琉球大学で色々な国から来た留学生と共に日本語を勉強しました。台湾、中国、韓国、タイ、イギリス、オーストリア、アルゼンチン、スペイン、ルクセンブルグから来た留学生でした。私は英語も中国語も話せません。そして、同じように私のクラスの中ではスペイン語を話せる留学生

も少ないです。ですから、お互いコミュニケーションをとるためには日本語が欠かせない道具だったのです。私の日本語が上達したのはクラスメートと沖縄で知り合った人たちとより仲良くなりたかったからだと思えます。最初は恐る恐る間違わないように良い日本語で



話すのに努力していました。そして、時間が経つに連れて間違いへの怖さを失くしました。私はクラスメートや沖縄で知り合った人たちと話したいから、過ちを恐れては何も話すことが出来ないと気付いたのです。相手が私とコミュニケーションをとりたいのであれば、どんな間違った日本語でも最後まで聞き理解しようがんばってくれる、そして、私も同じように相手の話を良く聞き理解するようがんばる。このように、私は「コミュニケーションの大切さ」を学ぶ事が出来ました。

二つ目は「勇気」です。留学をすると決めたときも勇気が必要でした。慣れてない環境、そして、自分の国とは違う文化の中に生きることになるからです。留学をすると決める前私の中には不安でいっぱいでした。その時、私の父がくれた言葉に「勇気」をもらいました。「一生に一度だ。だから勇気だせ。」この言葉のおかげで私は留学をすることにしました。沖縄に着き、琉球大学の授業が始まりました。日本語の授業には驚かされました。私にとって、ニュースを使って授業するのは新しい経験だったからです。私の耳は日常生活の日本語は十分理解できるのですが、ニュースで使われている言葉は聞きなれていませんでした。

工学部の勉強もとても難しかったです。専門用語が多い教科書を読んで、勉強しなければいけないからです。このように、私がいつも「難しい、難しい」と言っていた時に、先生たちが言ってくれた言葉に「勇気」をもらいました。「難しい、厳しい事はたくさんある、でも、逃げない



で立ち向かえ。」。この言葉は私の心の奥に刻まれ、将来、自分の人生の支えとなると感じます。新しい事、難しい事から逃げずに立ち向かう「勇気」を私は沖縄で学びました。

三つ目は「アイデンティティー」です。皆さんもご存知のように私は日系人です。二つの苗字を呼んで解ると思いますが、私の体には100パーセント沖縄の血が流れています。ですが、国籍では私は列記としたペルー人です。列記としたペルー人でありながら、ペルーでは外国人扱いされる時が多いです。それに、私は二歳から八歳まで日本に住んだことがあるので、他の日系人より私の「アイデンティティー」の問題は大きい物でした。ペルーにいても、日本にいても、私はどちらの国でも外国人扱いされるからです。私はどこに居るべきなのか解りませんでした。ですが、その「アイデンティティー」の問題は沖縄に来ることで解決できたのです。県費留学生としての、この半年で私は沖縄の事をより深く学びました。琉球大学の沖縄事情と言う授業で沖縄の文化と歴史を学び、三線サークルやエイサー、ぶくぶく茶などで沖縄の伝統芸能を体験する事が出来ました。そして、沖縄の人との交流も多くなり島人の心の温かさに気付き、私は沖縄の事をもっと好きになりました。留学をすることで私は沖縄の事をより好きになると同時に、私の出身国であるペルーも大好きになりました。こうして、ペルー文化と沖縄文化、二つの文化を受け入れることが出来、今まで私の「アイデンティティー」の問題が消えました。そして、自分が「ウチナー日系人」であることに誇りを持つようになりました。その「ウチナー日系人」と言う「アイデンティティー」を感じる事が出来たのは、去年の秋に行われた「第5回の世界のうちんーんちゅ大会」の影響もあると思います。今回 私たち県費留学生は大会に参加する事が出来ました。この大会に参加することは私にとって非常に素晴らしい出来事でした。何故かと言うと、この大会は私にとって「再会」の意味があったからです。二年前に出会った友達、親戚と会うことができ、そして、その絆をより深く刻むことが出来ました。その「再会」と同じぐらい私の心を暖かくしてくれたのは新たな「出会い」でした。他国から来た私と同じ県費留学生との出会い、大会のために全力をつくした沖縄県民の皆さんとも巡り合うことができ本当に幸せでした。この大会で私は自分の「アイデンティティー」の



問題の答えを知ることが出来ました。この大会で、色々な国のウチナンチュ子弟が大会に参加し、大会の間はその人達の沖縄への愛憎とそれぞれの国への誇りを感じることが出来ました。故郷である沖縄を愛し、出身国に誇りを持つ、それが私の「アイデンティティー」の問題の答えだったのです。

この三つのポイントの他にも私は色々なことを学びました。沖縄で学んだ事は私をより良い人にさせたと思います。沖縄に心から感謝しています。沖縄県庁、沖縄県国際交流・人材育成財団、琉球大学の先生方、クラスメートの皆、今まで沖縄で知り合った親戚と友達、県費留学生の皆、私は心からあなた達に感謝しています。本当にありがとうございました。

第六回の世界のウチナンチュ大会で会いましょう！その時、私は皆さんにこう言います。「ただいま」。



次の世代へ

上原 エリカ 里美 (ブラジル)

私はブラジル人の上原エリカ里美です。平成23年の県費留学生として、素晴らしくて、美しい沖縄へ再び帰って来ました。私自身は自由奔放な国で生まれたのに、ずっと心意気がウチナーンチュでした。

自分の家族は沖縄の習慣についてよく知っていて、子供の頃から私にそれをちゃんと教えてくれました。例えば、結婚する時や、友達を作る時など、ウチナーンチュの子孫相手であればならないと教えてくれました。それで、(私自身はブラジルで生まれたけれども、どうして知らない国の風習を従わなければなりませんか?) といつも不思議に思っていました。

平成22年に初めて沖縄に来た時に、家族がずっと私にいろいろな気持ちを込めて教えてくれた理由が、分かるようになりました。その時はとても驚きました。それは本当にすごいと思います。

今では、夢を思い描くようになって来ました。(できるだけ早く日本語が上手になりたい。沖縄の人にもブラジルに来てもらいたいです。ブラジルと沖縄はお互いに文化の交流をしてほしいので、お互いに文化をよりよく知った方が良いと思います。)

(これから、私の次の世代や、そしてまたその次の世代に、このような気持ちが日系ウチナーンチュのブラジル人達にも伝われば幸いです。) そんな私の夢が実現できれば良いなと思います。



私は沖縄を大好きになって、将来沖縄のために色々な事をやりたいと思います。

私は沖縄県費留学を再び導入したことを知って、直ぐにブラジルの選抜試験の準備を始めました。この試験を通るのはあまり簡単ではないので、ちょっと心配しましたが、私の夢のためにと自信を持って努力し、試験に合格できました。表すことのできない程幸せて、信じられませんでした。(ああ！！私の夢はもうすぐ実現するんだな！！)と思いました。

今では自分でウチナンチュになった気がしています。

県費留学のおかげで大好きな沖縄に帰って来ることができたので、夢のようです。

今回の研修は半年でしたが、とても良かったと思います。1年の期間が半年になりましたが、ウチナンチュ大会に参加できたという特権がありました。様々な国から来た沖縄好きの人達がこんなすごい集会に参加し、良い気持ちでした。



私、父、ブラジルの叔父さん達と沖縄親戚



パレードの準備



ブラジルの親戚と沖縄の親戚

この留学をとおして、琉球大学で日本語を勉強しました。文法を勉強したり、聞き取りや会話の授業を受けたり、それに加え、習字も学びました。漢字の学習は初めてでしたが、とても難しかったです。初めは苦労したけれども、必死頑張りました。大学で日本語に興味がある世界各国からの外国人と出会いました。そのような外国人に出会うと全然思わなかったもので、びっくりしました。

それに、スピーチ大会に初出場し、とても緊張しましたが、親戚、友達、先生が応援しに来てくれて良かったです。また、テレビにも出てしまいました。本当にこのとても素敵な経験は忘れられないものとなりました。

琉球大学には多くのサークルあるのに、偶然にブラジルの格闘技であるカポエイラサークルに通い始めました。自分の国の文化ですが、ブラジルから来て、初めて日本のカポエイラを見て大変感動しました。この出来事は、自分自身の実際の生活環境について視野が広がってくれるので、前よりもっと興味が湧いてきます。

さらに、沖縄県国際交流人材育成財団は多くの体験をさせてくださいました。JICAフェスティバルの参加者として、ブラジルの国を紹介する機会に恵まれた事に満足しています。森のにぎわいを見物し、感動した事は運が良かったです。

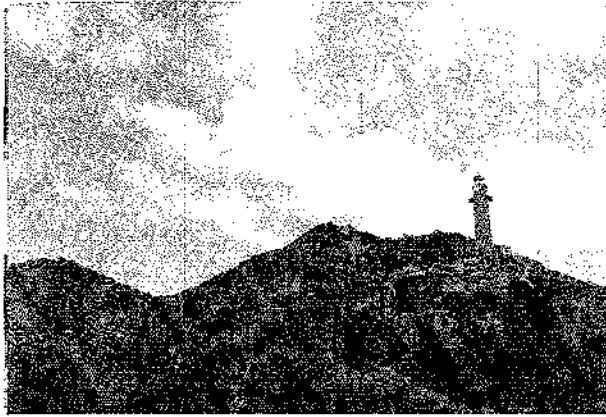
他には、石垣島と竹富島に研修しに行く機会がありました。観光地を回っただけではなく、それ以外のところでも勉強になりました。担当の山城さんが楽しくしてくれて、たくさん面白い重要事項を教えてくれたので、大変感謝しております。



カポエイラサークル



JICAフェスティバルにブラジル国の発表



石垣島に



竹富島に

琉大祭、沖国祭、芸大祭や他の様々な大学の祭典を見に行きました。その行事はブラジルで出会ったことがなく、とても素晴らしいかったです。

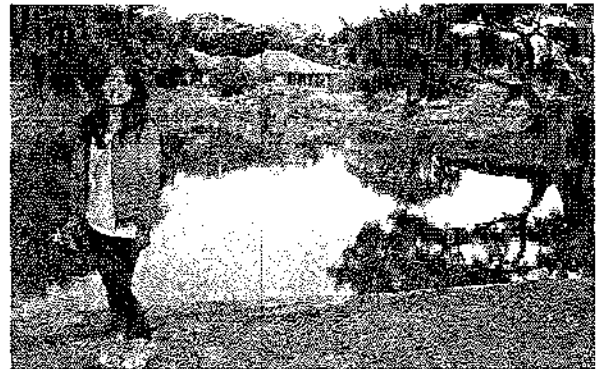
とはいえ、私の日本語の能力は少し低いので、琉球大学でとても受けたかった沖縄事情の授業への参加は許可されませんでした。本当に残念でした。重要な沖縄のことをもっと詳しく知りたかったです。

ですから、自分自身で興味深いと思う沖縄の事を勉強しました。例えば、識名園、斎場御嶽、園比屋武御嶽石門、首里金城町の石畳など世界遺産に登録されている所を訪ねる事で、先祖の歴史を理解できるようになりました。

それに、沖縄の伝統的な所を見て歩くだけでも、先祖の良い感情を思い起こさせます。



石畳

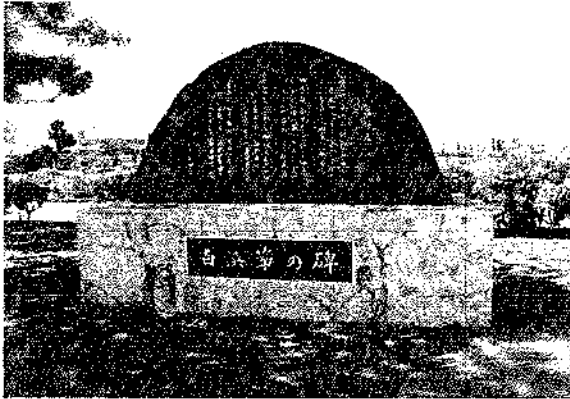


識名園



昔、沖縄は戦争の期間にかなり荒廃したのにウチナーンチュはそれを克服できました。私は、踊りや音楽があったから沖縄人は強くなったと思います。たとえば、三線を弾く時に、人々は少しでも、悪い事を忘れられるようになったと思います。

今でも、その気持ちが続いています。また伝えられるようになっています。私は、悲しい時、三線の音を聞くと、いつもすぐ気分がよくなります。今回沖縄へ来て、今までに好きなウチナー民謡をずっと聞いていたのが、少しでも理解できるようになり、歌詞の理解が深まりました。



歌碑を見つけられました

実際、私はウチナーンチュの子孫なので、自分の古里の沖縄にとっても興味を持たなければならぬと思います。

成長になることです。

私は自分で沖縄に来て、生活したのは本当にとっても良かったです。私の望み、多くの約束など自分一人ではしなければならないことになったので、とてもいい人生体験だったと思います。

半年間沖縄で留学している間、自分を知れるようになったのはすごいと思います。

クリスマスとお正月という私にとって貴重な時期に、初めて家族と離れる事が嫌でしたが、親戚と友達のおかげで、全然悲しくなかったです。皆とすごく楽しくいい時期を過ごせたことは、必ずいい思い出になります。本当に感謝しています。



留学生のクリスマスパーティー



石原ファミリーのお正月

肝心なことは、日本語の勉強だけではなく、沖縄にいる親戚の架け橋となる事は一番大事なことだと思います。親戚の強い絆になり、それがいい人生の経験になって行きます。そして、絶対にその県費留学は忘れられないものになります。

まず、石原ファミリーについては、いつも私のことを心配してくれ、日本語の問題を見てくれたり、見学や遊びに連れて行ってくれたりと、何でも手伝ってくれました。(Titio マサヨシと Tia のり子) と心からありがたいと思います。いつも支えてくれ、色々なことを教えてくれ、感謝の気持ちが言葉では言い表せないです。ですが、私たちはお互いに強い愛情の絆で結ばれていると感じています。

留学生活中の私の夢は大きすぎたので、これから帰国して、ブラジルと沖縄の関係を改善したいと思っています。それでも、もっと沖縄の人達にブラジルに来てほしいと思います。ブラジルと沖縄の文化交流がもっと盛んになって欲しいと思う夢はあと少しで実現出来ると思います。

私はこの経験を一生、忘れられる事ができません。



マサヨシ叔父、のり子叔母

ウチナーでの経験

高良 カロリーナ (ブラジル)

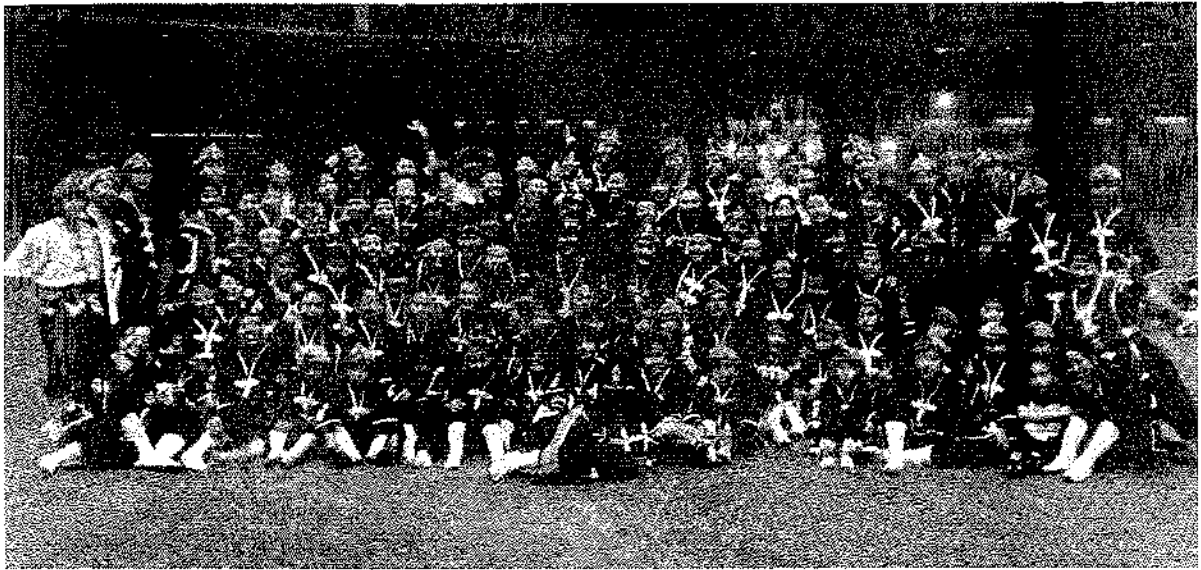
沖縄に来るのは幼いころからの夢だったので、こんなに早く実現できて、今でもまだ夢を見ているように感じます。

まず、空港に到着した時、私を迎えに来てくれたのは財団の方だけではなく、私が一度も顔を見たことのなかった親戚と琉球國祭り太鼓のメンバーでした。来る前に連絡を取っていなかったのに、予想外にもたくさんの方々が出迎えてくれ、すごく嬉しかったです。



その日から沖縄での忙しくて充実した日々が始まりました。10月には世界のウチナーンチュ大会のため、週に4回ほど太鼓の練習に行き、海外からのメンバーとたくさん交流しました。ブラジル、アルゼンチン、ボリビア、ペルー、アメリカとメキシコの祭り太鼓のメンバーと一緒に開会式にも出ました。世界中のウチナーンチュの前で、世界各国の祭り太鼓のメンバーと一緒に踊るのは本当に素晴らしい経験になりました。閉会式のときには観客として参加しましたが、グランドフィナーレのライブでは他の県費留学生や祭り太鼓のメンバーと友達と一緒に歌って踊りました。それは今でもとても大切な思い出です。

私は大会を通して、沖縄はこんなに小さな島なのに、世界中にウチナーンチュの輪が広がっていることを実感しました。またそれだけではなく、海外にいるウチナーンチュ達は自分のルーツを忘れず、アイデンティティと文化を継承し、こうして故郷に帰ってくるのは本当に素晴らしいと思いました。私はこの大会に参加したことで、ウチナーンチュとしてのアイデンティティを改めて誇りに思うことができました。



世界のウチナーンチュ大会にて琉球國祭り太鼓のメンバーと



世界のウチナーンチュ大会の閉会式 琉球國祭り太鼓、県費留学生、友人たちと

ウチナーンチュ大会も終わったある日、初めて親戚のお家に行きました。そこで自分の曾祖父の話や、祖父母が沖縄に来た時の話を聞いたり、沖縄の伝統的な料理を作ってもらったり、お墓参りしたりしました。美ら海水族館や今帰仁城跡にも連れて行っていただきました。すごく離れている親戚なのに、みんながいつもとても優しくしてくれました。

北谷に住んでいる親戚の子供もすごくかわいくて、ドライブ中にはいつも私の手を繋いできて、色々話かけてくれました。ブラジルにいる私の小さい頃と全く同じことをするので驚きましたが、とても嬉しかったです。それまでたいていの子供は恥ずかしがり屋だと思っていたのですが、無邪気なその子に心が和みました。

現在東京に住んでいる母のいとも私と会うためにわざわざ沖縄まで来てくれました。一緒に沖縄を観光して、たくさん話をすることができました。



そしてお正月は今帰仁で貴重な時間を親戚と過ごすことが出来ました。初めて家族と離れて過ごすお正月だったので、きっと寂しくなるはずだと思っていましたが、逆にとても楽しく新年を迎えました。親戚がいて本当によかったと心から実感しました。

琉球國祭り太鼓で色々なイベントに出ましたが、一番印象に残っているのは3つあります。1つ目は去年の12月に行われた「HY SKY FES (エイワイ スカイフェス)」です。そこでは沖縄出身のバンドHYさんと一緒に「時を超え」を踊りました。

2つ目は大晦日と初日の出のイベントです。2011年に最後にやったことはエイサーで、2012年に最初にやったこともエイサーです。ブラジルではいつも家族や親戚と過ごしていますが、沖縄で祭り太鼓の皆さんと一緒に過ごしたことは、とても変わった面白い経験でした。



HY SKY FES



初日の出

最後は1月の末に開催された「杜の賑わい・沖縄」です。2日間で4回も出演がありました。すべての出演が終わった後、見送りの時にたくさんの感謝や称賛の言葉をいただいたり、満足そうな顔をしているお客さんを見て、心が達成感と嬉しさでいっぱいになりました。

琉球大学では、日本語IV (A,B,C) の授業で、世界と沖縄のニュース、丁寧や普通態の会話、漢字やさまざまな表現を学びました。私はビジネス日本語という講義も受けました。ブラジルで勉強したことがなかった敬語やビジネスマナーが勉強できて、将来役立つ知識を得ることができました。また、その授業ではみんなの前で時事問題について発表しなければならなかったので、インターネットで日本語を使って検索して、みんなが分かるような簡単な説明を習った敬語を用いてしました。最初は日本語で発表するのはとても不安でしたが、このような練習のおかげで、少し自信がもてるようになったと思います。

日本事情と沖縄事情という講義も受けました。日本の習慣や、沖縄の歴史と文化を色々学びました。来る前に日本について少しは知っていると思いましたが、講義を受けてから、案外知らないことが多いことに気づきました。また沖縄についての知識は本当に知らないことばかりで、少し恥ずかしくなりました。沖縄事情の授業は教室の外に出て、実際に色々見学することが多く、首里城や浦添城跡に行きました。組踊も2回見ることができました。授業で学んだことを実際に見れて、より勉強になりました。この沖縄事情の講義はとても得るものが大きかったと実感しています。

また学内のサークルに所属し、そこで初めて三線を習いました。ブラジルでも自分で弾いてみたことがあるのですが、そのときとても難しく挫折したので、今回も曲を弾けるようになるまでに長い時間かかると思っていました。でも意外にとっても簡単でした。サークルのみんなと一緒に琉球大学スピーチ大会の余興で「安里屋ユンク」と「涙そうそう」を弾いて、とても楽しかったです。

ここでできた友達は県費留学生と祭り太鼓の先輩だけではなく、市町村の研修生たちや日本人の学生とも仲良くできました。よくみんなと見学や遊びに行きました。見学に行ったところは、オリオンビール工場、泡盛工場、沖縄



琉球大学での日本語のクラス



三線サークル

ワールド、沖縄県立博物館・美術館、平和記念公園などです。遊びに行ったところは、那覇祭り、パイナップルパーク、古宇利島、名護桜祭りなどです。クリスマスもみんなと一緒に過ごして、家族や親戚とは離れていましたが全然寂しくありませんでした。

琉球大学は留学生のために、色々面倒見てくれたり手伝ったりする日本人学生（チューター）がいますが、私のチューターはただそういうことだけをする人ではありませんでした。チューターはすごく親しい友達になった上、沖縄のことをしょっちゅう説明してくれました。その点、私は本当に恵まれたと思います。

11月末にはJICAフェスティバルに参加することになり、自分の国の紹介をしなければなりません。最初は簡単なことだと思っていましたが、とても大変でした。私はブラジルについて知らないことがたくさんあることに気づきました。このことは自分の国の歴史と文化や習慣を見直すのに、とてもいい経験となりました。色々な質問をしてくれた方、またブラジルに行ったことがある方とたくさん話ができとてもいい思い出になりました。

1月には「外国人による日本語弁論大会」に出場し、非常に貴重な体験をすることができました。琉球大学の先生と友達と一緒にスピーチを精一杯練習しました。当日、先生方と友達が応援に来てくれてすごく嬉しかったです。みんながいたから、安心してスピーチをすることができました。

そして最後に私がすごく嬉しかったのは離島へ行けたことです。友達と一緒に宮古島へ行き、担当者と県費留学生のみんなと石垣島と竹富島へ行って来ました。素晴らしい景色を見たり、伝統的な料理を食べたりしました。また地元の方の話を聞いたり、平和学習もしました。二つの旅を合わせても5日間だけでしたが、たくさん思い出を作ったたくさん勉



研修生・県費留学生の友人たち



名護のオリオンビール工場にて日本人の学生



チューターと (右)

強することができました。

今回の県費留学は残念ながら半年間ではありましたが、この短い間で1年以上の経験ができたと思います。沖縄で勉強したこと、体験したことをブラジルへ帰って、日系人に限らず多くの人々に伝えたいと思います。そしていつか必ず沖縄に戻ってきたいです。

素晴らしい留学の機会を与えてくれた、沖縄県庁、沖縄県国際交流・人材育成財団、沖縄県民の皆様には心から感謝しております。また、この留学生生活を有意義にしてくれた琉球大学の先生方と留学生、琉球國祭り太鼓の海外支部と沖縄のメンバー、親戚、友人たち、県費留学生のみんな、本当にありがとうございました。

皆さんまた会いましょう！



未来への架け橋

稲福 フェルナンド ガブリエル

(アルゼンチン)

私は沖縄を訪ねるのは初めてではありません。

2004年に北中城村研修生として来日し沖縄の美しさを発見する事ができました。この期間で、沖縄の文化について多くのことを学びましたが、もっと測り知れない重要なことがありました。それは私のルーツを見つけて、沖縄の本当のチムグクルを理解したことでした。

それ以来、アルゼンチンにある琉球サブカイ三線のグループに参加して、だんだん少しでも琉球民謡が引けるようになりました。またアルゼンチンの沖縄コミュニティの活動によく参加していて、琉球古典音楽に興味があり2009年から野村流音楽協会に入って古典音楽を勉強し始めました。

アルゼンチンではもう社会人なので、働きながら古典音楽の勉強も一生懸命に頑張ってきました。この間に琉球古典音楽が本当に重要なことだと分かるようになりました。この技術を広げ続けていく必要を理解しました。琉球古典音楽がなかったら琉球舞踊もありません。それで琉球芸能がなかったら、祖先の文化遺産はだんだんなくなっていくかもしれません。これは極めて辛い事だと思います。

現在、アルゼンチンでは琉球芸能に参加しているほとんどの方々がお年寄りです。

長い間、新しい世代と交流することがありませんでした。この大変な状況を考えると、私は本場沖縄で琉球古典音楽の学習を続けることに大きな希望を持っていて沖縄県立芸術大学で勉強するために県費留学を受けることにしました。



沖縄県立芸術大学



交流会

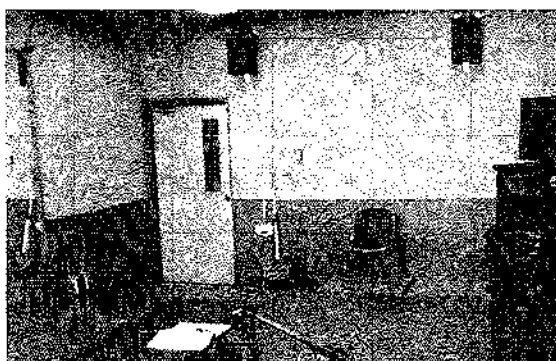
私は県費留学生として選ばれてとても嬉しく大きな責任を感じています。自分の望みは三線によって、祖父母の世代と次の世代にとっての架け橋になることです。

また、この架け橋は色々な世代間だけではなく、私の国アルゼンチンと沖縄の間にも必要なことだと思っています。

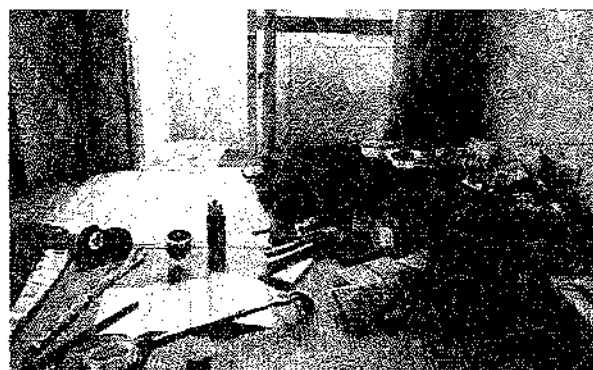
この願望があって去年の9月28日沖縄へ来ました。

沖縄へ来て以来、ずっと沖縄県立芸術大学で勉強をしていました。芸大では勉強していた県費留学生は私しかいなかったの少し寂しかったです。しかし、勉強はとても面白くて興味が持てたので嬉しく思いました。

大学では三線の勉強だけではなく笛や胡弓や太鼓も学んでいました。さらに、様々な講義に出ていました。その中で琉球芸能史と詞章研究の知識も広がりました。私の日本語能力はまだ中級なので両方の授業は難しく思っていました頑張りました。沖縄へ来る前から琉球歴史と琉球芸能史に興味があつたけれども、この授業を受けたので興味を強めました。ですから、自分で調べ始めて図書館で本を読んだり、本屋さんで本を探したり、インターネットで調べたりしました。そして、詞章研究のために歌の歌詞の意味をもっと深くに理解することができました。それだけではなくて、先生が人生の教えも与えてくれて忘れられない経験でした。それから毎週4回も専攻以外の日本語を勉強していました。先生達は私の日本語が上手になるようにたくさん教えてくれました。



県立芸術大で練習



お部屋で練習

芸大の留学生として色々なイベントに参加することができました。まず、大学では琉球芸能の先生達と学生全員で毎年10月に行っている定例会演奏会で参加するのに間に合いませんでしたが裏の準備を手伝って皆と仲良くなりました。そして、素晴らしい発表を見て感動しました。それから、11月に沖縄地域にいる留学生パーティで代表のあいさつをして、他の同じ芸大留学生と一緒に三線、ギター、芝居でコラボレーションをしました。そこで色々な国の大学の留学生と交流をすることができてよかったと思います。

沖縄で初めての舞台が学内演奏会の舞台でした。そのために練習がいっぱいあってゲネプロもリハーサルも初めてやりましたからちょっと大変でした。しかし、この経験は実に愉快地過ごすことができて素晴らしいかったです。学生みんなで力を合わせて立派な演奏会

ができましたからいい思い出になりました。

また、2月に初めておきなわ国立劇場で舞台に出ました。その時三線ではなく太鼓の舞台でした。私は学んでいる楽器の中で太鼓が一番難しいと思いますので一所懸命頑張りました。夢のような、少し緊張したけれど人生では忘れられない経験になりました。

また、学期の終了前に様々な試験があったので試験の準備でずいぶん頑張りました。

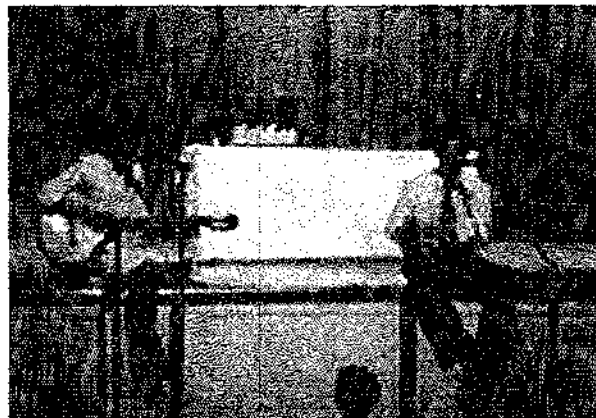
学期が終わっても歌碑巡りがあり私が好きなおじいちゃんの故郷で歌碑を調べてクラスメートとこの情報を分け合いました。そして、皆で調べた歌碑を見学で見に行きました。

大変な勉強になりましたが歌詞を調べて歌に書かれた場所へ行くことで琉球古典音楽に対する理解を深めました。皆楽しそうに、元気に勉強をしていましたからよかったです。

沖縄の美しい所を色々見に行きました。その上に、沖縄の歴史関係がある所もいろいろ訪ねました。この中で何回行っても一番印象に残ったのは糸満市にある平和記念公園です。沖縄戦は恐ろしく辛い期間でした。私達は経験したことがありませんでしたからイメージできませんが戦争の事を忘れずに沖縄伝統的な文化によって平和を広げたいと思います。



ウチナーンチュ大会で北中城人



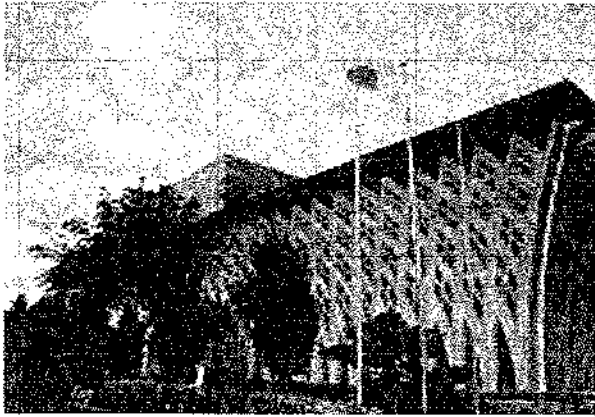
留学生パーティ

留学中では親戚、先生達、留学生コーディネーター、友達、クラスメートは色々なことを助けてくれてとても感謝しています。皆さんのおかげでちゃんと勉強ができで素敵な楽しかった留学期間でした。

この留学のおかげで県立芸大で勉強するのをすごく素晴らしいと思いました。芸大ではもちろん勉強が一番大切ですが専攻だけではなく同じ興味をもっている人に会ったり、サークルに参加したり、図書館で沖縄関係の本を読んだり、演奏会に行ったりしました。

留学の目標は専門の勉強ですが同じように人々との交流は大切だと思いました。芸大の同じ琉球芸能を専攻している学生と学外でも交流できているのが嬉しくおもいます。

そして、初めて沖縄の家族と一緒に正月を過ごしたのはとても素晴らしかったです。



国立劇場おきなわ



友達と一緒に三線で遊んでいます

半年は速すぎましたが沖縄の事についてもっと分かるようになりました。私が小さい頃から話に聞いていた沖縄には、やっぱり聞いていた通りの沖縄の本当のチムグクルに溢れていました。ゆいまーる、命どう宝、イチャリパチョーデー、ナンクルナイサなど本当の意味が分かってきてアルゼンチンのウチナー社会にも必ず伝えたいと思います。

沖縄で6か月に暮らしてたくさんの人に出会えました。それで、ウチナーンチュの若者に出会って時々この若者が沖縄に興味がなく、沖縄海外コミュニティーの存在を本当に全然知らなくて自分は悲しくなりました。ですから、県費留学生として沖縄の素晴らしさを発見する機会があつてとても大事なことだと思っていますが、同じように私には沖縄から海外に来る留学生に対しても特別な思いがあります。双方向の交流をしながら、沖縄と世界中の沖縄文化が生きている場所の間で、沖縄文化を守って広げていく手伝いをしたいと思っています。



歌碑巡り



学内演奏会



ティオとそら

最後に、お世話をしてくれた、沖縄県庁交流推進課の皆様、沖縄県国際交流・人材育成財団の皆様、沖縄県立芸術大学の先生方と留学生コーディネーター、沖縄住民の皆さん、アルゼンチン沖縄県人会の皆さん、家族、友達、心から感謝しております。

将来は先生になれるかわかりませんが頑張りたいと思っています。琉球芸能・沖縄文化によって沖縄で学んだことを生かして、アルゼンチンでは沖縄大使になって働いていきたいと思っています。

私の国で沖縄が生き続けるために。

イッペーニフェーデービル。

わんねー、ウチナーンチュ

内間 屋比久 パウラ ダニエラ
(アルゼンチン)

この半年、沖縄でたくさんの素晴らしい経験を言葉に表すのが難しいです。沖縄は私の初海外旅行であり、絶対いつか来たかった場所でした。

それは日系人として、私のルーツや沖縄文化を深く知りたかったからです。また、日本語の勉強をしたかったのも、この留学はのがすことができない機会だと思いました。

同じ県費留学生のきよしとビクトリアと初めて沖縄国際大学に通う県費留学生で、最初は少し不安でした。でも、予想以上に素晴らしかったです。先生方はいつも親切に日本語を教えてくれて、とてもいい雰囲気でした。勉強しました。また、沖縄国際大学の交流センターで、他の留学生と日本人と出会うことができました。毎日みんなと一緒に昼休みを過ごして、話したりしました。交流センターで出会った友達や同級生と大学以外で良く遊んだりしましたので、日常生活はとても楽しかったです。日本語をあまり話せなかった私は、先生方や友達のおかげでどんどん話せるようになりました。



沖縄国際大学の日本語スピーチコンテストに参加して、同級生ともっと深い関係が出来ました。自分が言いたいことをみんなに伝えることができ、また他の留学生のスピーチを聞かれる、楽しい機会でした。私はスピーチ大会で感動させたウチナーンチュ大会を主なテーマにして、話しました。



ウチナーンチュ大会は思っていた以上に素晴らしかったです。親戚や友達と共に、パレードで大勢のあたたかい歓迎を受けたり、三線と伴った伝統的な踊りを楽しんだり、沖縄の歴史を自分の目で見る事ができて、忘れられない経験でした。ウチナーンチュ大会では、ウチナーンチュの気持ちが初めて私の中にあふれてきた感動的なイベントでした。

沖縄の文化に興味があったので、この半年で色々なサークルに参加しました。きよしとビクトリアと「風車」という沖縄国際大学の伝統的なエイサーサークル



に入りました。エイサーのメンバーはとても優しく、すぐに私達を盛んな歓迎してくれて、いつも親切にエイサーを教えてくださいました。練習は楽しくて、メンバーと仲良くなれるようになりました。

アルゼンチンで「琉球サブカイ」と言う三線サークルに入って、2年間やっていました。三線は、私が沖縄と沖縄文化に興味があるようになった絆であり、沖縄で三線の練習を続きたかったです。いろいろなサークルに参加して、とても面白い経験でした。

また、沖縄の民謡や古典音楽のおかげでうちなーぐちに興味をもつようになりました。おばあちゃんやおじいちゃんを使う方言だけでなく、うちなーぐちは沖縄の大切なものであると思います。方言が亡くさないように、私もうちなーぐちを勉強し始めました。ある授業で、先生は安里屋ユンタの歌詞の意味を説明してくれました。その時から、安里屋ユンタをもっと感じて歌えるようになりました。

沖縄に来て、初めて沖縄にいる親戚と出会うことができました。親戚と色々な話しをしたり、お正月も一緒に過ごしたり、とても大切な思い出になりました。これから、アルゼンチンに帰っても、親戚と連絡取れるようにしたいと思います。

この留学で、日本語の勉強ができて、沖縄文化も学んで、親戚と出会えました。しかし、もっと大切だと思うのは、毎日新しいことを学んで、人間として成長した気がします。また、沖縄で半年過ごして、私がウチナーンチュだと感じるようになりました。これから、帰国したら、沖縄で学んだことをアルゼンチンで広めたいと思います。沖縄の豊かな文化

をアルゼンチンでもずっと続くように頑張りたいと思います。

今回は普通の一年間でなく、あっと言う間に過ぎた半年だったけど、とても楽しむことができました。県費留学生として、沖縄に来ることになって、この半年でお世話になった皆様に心から感謝しています！

ありがとうございました！



沖縄で過ごした経験

ネウマイエル ビクトリア ラウラ

(アルゼンチン)

この六ヶ月が終わるのが信じられません。またアルゼンチンに戻る時期が来ました。短い時間だったけどたくさん学んだのでこの六ヶ月間が長く感じます。

沖縄に来る前に、「どうして日本語を勉強する」と聞かれた時いつも「私の祖父母は日本人ですから興味があります」と答えました。来る前に沖縄について少ししか分かりませんでしたので沖縄は日本と違うということを知りませんでした。しかし次からそんな質問を聞かれたら、私の祖先は日本人ですけど実は沖縄人と説明します。

沖縄の文化や歴史についてどんどん習って行って、沖縄がもっと好きになりました。この島は本当に特別です。こちらでたくさん習いました。最初にじこしょうかいしかできなかつたし、少ししか話せなかつた。でも、優しい友達たちと先生たちのおかげで上達していきました。沖縄国際大学のスピーチコンテスト本当の挑戦でした。難しかったけれども参加したことが幸せに感じた。この奨学金が日本語と沖縄の文化を習うことだけではなく私の家族と自分のこともたくさん習いました。今、おじいさん、おばあさん 経験したこと、人生、そしてアルゼンチンに旅行を決めた理由が分かると思います。それと、知らなかった親戚と長い間で見えなかつた親戚と再会できるチャンスももらいました。それが非常に満足でした。

沖縄国際大学
学内日本語スピーチ

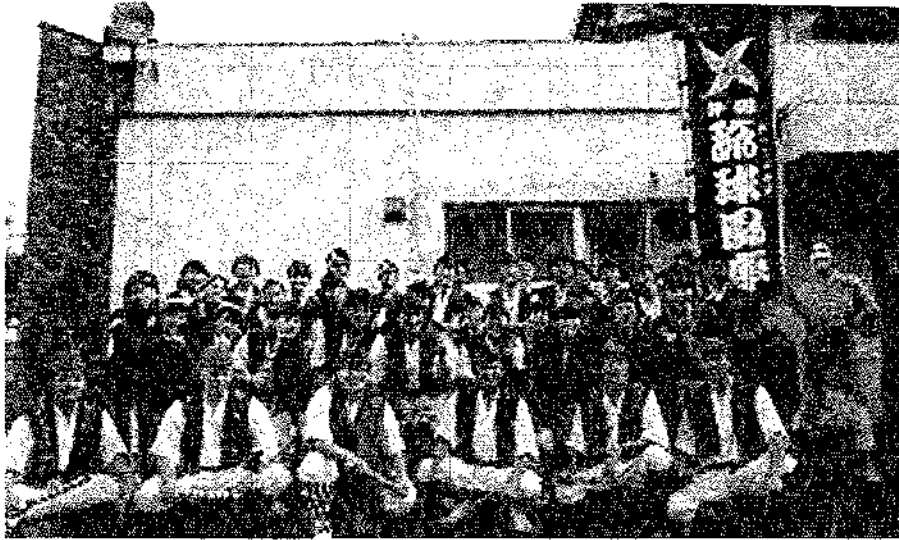


日本にいて私の国のことをシェアできました。私の日本人の友達と色々な文化の違いとか、習慣とか、場所の話がとても楽しいです。JICAフェスティバルを経験して人達の質問を答えたことがとてもいいと思います。

沖縄国際大学と琉球大学で色々なサークルに行きました。これは沖縄文化について習って触れ合うことができたと思います。私達はエイサー、三線とうちなーぐちのサークルに参加しました。

うちなーぐちを守るのがとても大切だと思います。アルゼンチンではうちなーぐちを教える場所がありませんので、難しいけどうちなーぐちの授業に参加しました。

沖縄の歌は三線の音がします。とても難しいけど、やっ



と一曲がひけたのがとても報われるし楽しいです。

エイサーが一番楽しかったサークルでした。練習が週に三回でした。みんな全部の踊りを習うように努力しました。最後には名護の桜祭りでパフォーマンスしました。その経験はとてもよかったです。私はとてもうれしかったです。私は特別に伝統的なエイサーに興味があります。そんなエイサーはアルゼンチンでは見られません。だから私は伝統的なエイサーグループがアルゼンチンで典型的な曲をパフォーマンスしたらいいと思います。

習う上にたくさんの友達がサークルでできました。もっと話せるようになるためには今の沖縄のライフスタイルと習慣をも知ることが大切だと思います。本当に沖縄の人達は特別だと思います、イチャリバチョウデーの意味を分かっていただきました。その友達のおかげでいつでも沖縄に戻れる気がします。遠くにいても日本語を練習できるしこの島と関係がある気がします。

本当に沖縄国際大学にいて良かったと思います。先生、同級生と友達とのいろいろな思い出ができました。みんなとても親切でいつも手伝ってくれました。大学と色々なイベントに参加したし、いろいろな場所を見学しました。こんな小さな島にこんなにたくさんの場所があるのが信じられません。私達だけでいろいろな場所に行きました。平和記念公園はとても重要な経験でした。



ウチナンチュー大会はとても特別な時期でした。いろいろなイベントに参加できたいろいろな国から沖縄に戻る人がいて、とても楽しかったです。

こんな短い時間にこんなにたくさんのいい経験が重なるのが信じられません。ほかの留学できると思うけどこの留学とは比べませんと思います。この島はおじいさんとおばあさんの島です、だから私は沖縄との関係は特別です。本当に沖縄に留学生として来るのが感謝しています。短い間とか、休日で来ていた場合はウチナンチュー気持ちができることができなかつたと思います。私はラッキーだとおもいます。ですからアルゼンチンに帰ってから私の経験を若い人達と共有して自分のルーツを探すようにしたいのです。



この半年間、私の人生に様々な変化が occurred。今はアルゼンチン人だけではなく、ウチナンチューでもあることが分かりました。これからも日本語の勉強を続け、この研修で得た知識と経験を故郷の人達に伝えたいです。そうしたら少しだけでも沖縄の文化に興味をわかすことができれば、それがきっかけでより沖縄のことを知りたいようになるでしょう。沖縄では色々な大切なものを手に入れることが出来ました、その大切なものとはこの半年間での経験と知識、そして何よりもここで知り合った人々達。この大切なものはいつまでも私の心の中に刻まれていくでしょう。皆さんこの6ヶ月、大変お世話になりました。こころの底から感謝いたします。



伝えきれない体験

サラサル 仲間 ラファエル 清志

(ペルー)

祖先の地元、沖縄での県費留学がもうすぐ終わるかと思うと、それを信じる事ができません。私はペルーから参りました、サラサル キヨシです。自分の祖父母はウチナーンチュですが、私の場合はペルーで育った、日系3世です。今回留学に来る前に、沖縄に一度も来た事がなかったので、分からない事が沢山ありました。沖縄はどんな所か、人々は優しいか、文化はどのように違うのかを知りたいという気持ちがありました。



リマから沖縄まで飛行機で30時間かかった後、やっと那覇空港に到着しました。伯父に初めて会った時に早速意気投合し、私のアパートまで連れて行ってもらいながら色々なことについて話しをすることが出来ました。その夜私は「今の自分の日本語能力で大丈夫!」と思いましたが、初めてスーパーで日用品を買いに行った時に日本語を全く理解できなかったで、日本語のレベルをもっとあげる事が必要だということに気が付きました。



最初の日々は私の日本語の能力は低かったので、沖縄の人達とコミュニケーションがうまく取れなかったのですが、それに比べ私以外の県費留学生の皆は、日本語が結構上手だったので、少し羨ましいと感じていました。私は皆の高い能力に追いつけるように、日本語の勉強をもっと頑張ることにしました。沖縄国際大学の授業で日本語だけではなく、沖縄

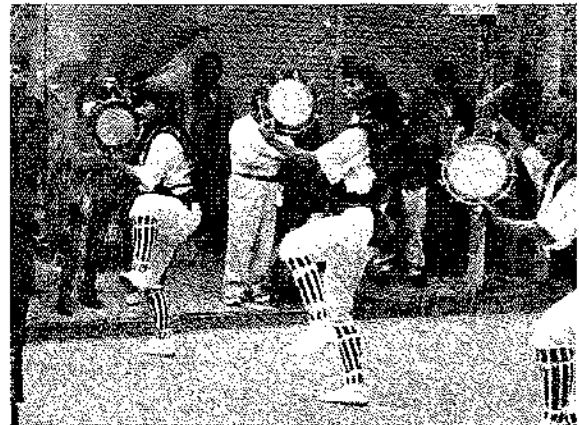
の歴史と文化も学び、さらにクラスメートや他の留学生と見学をしたおかげで、日本語そして沖縄の事についてだんだん分かってきました。先生達と沖縄で出会った友達はいつも忠告や手助けをしてくれて、日本語の勉強を続けることを励ましてくれました。もちろん、初めて沖縄国際大学の授業を受けた時は、あまり理解が出来なかったし、漢字も読めなかったし、先生が何と言っているのか聞き取れなかったし、「これは本当に中級ですか? 上級みたいよ!」と考えました。しかし、時間が経つにつれて日本語と沖縄の文化の授業が分か

るようになって、沖縄での留學生活がもっと楽しくなっていました。少しずつ、沖縄国際大学の留學生や県費留學生と色々な所へ一緒に遊びに行つて仲良くなり、ウチナーンチュの友達も出来ました。沖縄の人達からこの島のとても面白い話を聞いて、自分の沖縄のルーツについて、考えるようになりました。

また、私のアイデンティティーを見つけたかったので、沖縄の伝統的な活動に参加することにしました。まずは、沖縄国際大学の琉球風車「りゅうきゅうかじまや」と言うエイサーのサークルに入りました。初めて練習を見た時はとても驚きました。風車の情熱的なエイサーはかっこいいと思ったので、いつか自分も踊れるようになりたいと考えた私は、エイサーを始める事にしました。次に、琉球大学の三線「さんしん」のサークルに入りました。最初、私はギターを弾けるので、弦が三本の楽器は簡単に出来るだ

ろうと思っていました。しかし、引き方は全く違い、三線の楽譜は漢字だけで書いてあったので、意外に難しかったです。また、琉球大学のウチナーグチサークルにも入りました。サークルに入る前、方言は老人の言語だと思っていましたが、ウチナーグチは沖縄の特徴だと分かったので、大切にしようと思いました。現在、沖縄の若者はウチナーグチに関心がないため、だんだん無くなってきていると聞いて、沖縄の方言を広めるために何とかしなければならぬと感じました。

さらに、琉球大学でサルサのサークルを作りました。最初のメンバーはたったの3人しかすぎませんでした。が、どんどん増えてきて、サルサの最後の練習には20人以上の人が参加しました。また沖縄の伝統的な活動を一生懸命頑張ったので、サークルに入ってから5ヶ月後にやっと、風



車と一緒に桜祭りでエイサーをすることが出来ました。締め太鼓を叩く度に、私の中に情熱的な鼓動を感じました。そして私のウチナンチュの心を見つけました。また、琉球大学の日本語スピーチ大会で初めて三線の演奏をすることが出来ました。安里屋ユンタと涙そうそうをゆっくり引きながら、自然に口から歌詞が出てきました。私のウチナンチュの声も見つけました。沖縄に来る前と比べると、この短い期間で私の意識はずいぶん変わりました。祖先がウチナーで生まれたおかげで、私はこの遺贈を受け継ぐことが出来たので、とても誇りを持っています。

私は同じ県費留学生と仲良くなれてとても良かったです。一緒に過ごした日々を絶対に忘れることが出来ません。勉強、観光、第5回の世界のウチナンチュ大会、カラオケ、私のアパートでの飲み会、苦労、世間話などです。嬉しい時も悲しい時も、いつも一緒にいて、この県費留学の終わりまで、皆さんと笑顔で過ごすことが出来ました。沖縄で出会った素晴らしい県費留学生の仲間達を見ると、私は県費で沖縄に来ることが出来てとても良



かったと感じます。皆さんとは自分の国へ帰国しても、いつでも連絡を取ることが出来るので、もし誰か苦しい時を過ごしていれば、お互い励まし合おうと思います。

最後ですが、この半年はすごく早く経過しました。ペルーに戻っても日本語の勉強、沖縄との関係、そして沖縄で出会った友達と交流し親睦を続け、沖縄の魔法を伝えられるように頑張りたいと思います。この沖縄に来るチャンスを与えてくださった方々に、心からイッペーニフェーデービル。



沖縄っていう絆

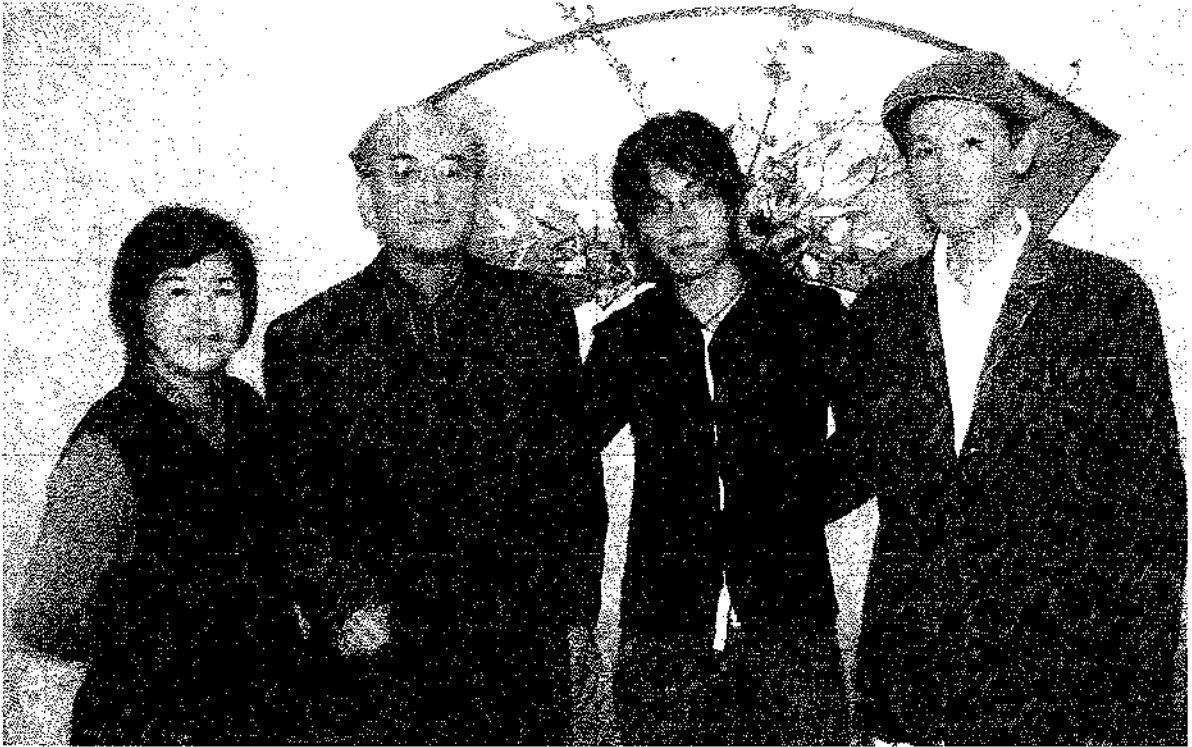
輝也 セバスティアン (アルゼンチン)

私は輝也セバスティアンと申します。沖縄系3世でアルゼンチン共和国のメンドーサと言う町から参りました。名桜大学で勉強しています。



子供のころから祖父母に会う機会が少なく、メンドーサに日系人があんまりいないし自分の家族の中でも沖縄の伝統や習慣はあまり伝えられませんが、時間が経てば経つほど私のルーツが気になったから自分で日本語の勉強を始めることに決めました。そして沖縄についてもっと知りたくなり、日本語の先生からこの県費留学のことを知り、試験や面接を通して沖縄に来ることができました。

着いた時にびっくりしました。なぜなら、安全だし非常にきれいな景色もあるし（実はビーチへ行ったことなく、ここで生まれて初めてビーチを見ました）でも一番いいのは人だと思います。自分の場合は外国へ旅行したり一人暮らしをすることも初めてなので大変難しいだと思っていただけでみんなが手伝って大丈夫でした。例えば自分の親戚は初めて会ったけどすごく優しくして、手伝ってくれたので感謝しています。でも親戚だけではなく、沖縄に会った人はみんな素晴らしいと思います。先生方々や生徒たちのお世話になって、みんなから毎日新しいことを習いました。大学に限らず、勉強でも遊びでも沖縄を教



室にして、毎日が授業だと感じるようになりました。

普通に県費留学期間は一年間ですけど今回は半年になりました。最初は残念だと思っていましたけど今思えば本当にラッキーだと思います。なぜなら、第5回世界のウチナーンチュ大会に参加することができたからです。

それのおかげで沖縄の知識を増やしました。特に歴史に興味があり博物館に行ったり、世界中のウチナーンチュと知合いになったり、いろんな話を聞いたりすることで沖縄の強さを知りました。戦争の辛さを越えもう二度と繰り返さないように次世代の人々に伝わって一生懸命頑張り回復する沖縄がわかって、自分のルーツやアイデンティティを確かめることができました。

ある日友達が「セバスティアンにとって沖縄を一番代表する言葉は何ですか？」って聞いたら「ええ、、、何だろう？」ってめちゃ迷っていました。しかし今よくわかってきました。太鼓や三線の音を聞くだけで感動したらそれは「沖縄」、おばあちゃんが子供に「チバリョー」って応援したらそれも「沖縄」、おじいちゃんの話聞いて涙をこぼしたらそれも「沖縄」でしょう？つまりただ日本のある県じゃなくて沖縄っていうのはみんなに世界中のウチナーンチュと強く繋がるその『絆』。



自分の場合はアルゼンチン出身で、もちろんいつも私の母国だけこの半年ですごく素晴らしい人に会って、一緒に時間を過ごしたり笑ったり泣いたりして、実際にその絆で繋がっていると気付いてももうウチナンチュとして生まれ変わったと感じます。これは沖縄に来たおかげなので手伝った人にありがたい気持ちでいっぱいです。メンドーサの日本語学校の方々、ブエノスアイレスの沖縄県人会の方々と沖縄での親戚の方々、国際交流・人材育成財団の方々、特に私たちの担当者山城太一さん、この半年は大変お世話になりました。そしておじいちゃんとおばあちゃん、この優しい人であふれる美しい所に生まれて、一生に心から感謝しています。





みんなそして沖縄ありがとうございました、イッペニフェデービル、MUCHAS GRACIASまた帰るからその日までアルゼンチンより心から応援します！

短くて長い四ヵ月半

黄 鶯（中華人民共和国）

「僕はあまり大きなことは言いたくない。でもあえて言わせていただくなら、それが人生なのだ。」これは村上春樹の短編小説「カンガルー日和」に出てくる私の大好きなセンテンスである。私もあまり大きなことは言いたくない。でもあえて言わせていただくなら、私を含めて県費留学生のみんなは沖縄で過ごした数ヶ月の生活を通して価値観、人生観、社会観、世界観の面では大きな影響を受けて成長したのであろう。数ヶ月の留学生活は県費留学生のみんなにとって人生の宝物だといっても過言ではないだろう。

時がいつも驚くべきスピードで過ぎ去っていくことがちゃんとわかったから、沖縄に来た時、帰国までのカウントダウンをすぐに始めた。この四ヶ月半ぐらいの間、いろいろなことが起きた。楽しいこと、つらいこと、予想外のこと。いろいろな人と友達になった。意外な展開が次から次へと起きた。「それが人生なのだ」。

ところで、短かったが、すごく楽しく過ごした四ヵ月半である。それでは、勉強から報告しようと思う。

一 勉学

文学に興味を持っているので、文学を中心に講義を受けた。日本文学に関する講義は「日本近現代文学講読」、「日本文学概論」、「日本文学史」、「日本語作品講読」、「琉球文学講読」がある。比較の視野から日本人がどのように中国文学を受容するかということが興味深く、「中国文学概論」を受けた。それ以外、「日本語文法論」も受けた。興味として、大城先生が担当された「琉球文化」の講義も聞きに行っていた。

「日本近現代文学講読」という講義は受講生の発表をもとに議論するという形で行なわれた。前半は原爆文学、沖縄文学、占領文学の短編小説の代表作が取り上げられた。講義で沖縄文学の代表作である目取真俊の「水滴」や占領文学の代表作である大江健三郎の「人間の羊」などの作品が読まれた。目取真俊は沖縄県出身で琉球大学の卒業生である。「水滴」は沖縄戦を生き残った主人公が奇妙な病気になったことを通して、戦争の記憶がよみがえった。戦場で実際起きたことが戦後の沖縄で都合が悪くて話しづらいことになる状況が露呈される。つまり、戦後に語られる戦争談はある程度潤色されたものにすぎないということは「水滴」が指摘している。「人間の羊」はノーベル賞作家大江健三郎の短編小説である。日本人のズボンをおろしてお尻を叩きながら「羊撃ち、羊撃ち、パンパン」を歌う「外国兵」像、羊にされた日本人像、世論に訴えることを勧めた「教師」像が描かれている。戦後のアメリカによる間接統治で抑圧される戦後日本社会の全体的な閉塞感が感じ

られる。後半は大江健三郎の書き下ろし長編小説『水死』が取り上げられた。2000年代に入ってから、大江氏は自分自身を思わせる「長江古義人」という作家を主人公として、大江氏の家族と友人をモデルとする長編小説を書き続けてきた。『水死』はその一作である。今回のモデルは第二次世界大戦中に亡くなった父と大江氏自身である。作品は大江氏が自分の中に潜んでいる二種類の昭和の時代精神を追究した。つまり、戦前の国家主義と戦後の民主主義である。私は講義で『水死』の第12、13章について発表した。最後に「『水死』における「コギー」像」というテーマでレポートを書き上げた。

「日本文学概論」という講義は「他者化」問題をめぐって構成される。「沖縄」、「被差別(者)」、「病」という課題で佐藤惣之助の「琉球諸島風物詩集」、広津和郎の「さまよへる琉球人」、久志富佐子「滅びゆく琉球女の手記」、山之口獏の「会話」、川端康成の「二十年」、北条民雄「いのちの初夜」などの作品が読まれた。部落差別問題を検討した映画『橋のない川』と「病」の問題に関わる映画『カッコウの巣の上で』を見た。学期末にレポートとして「琉球女の生存状況」と「琉球人目線と他者目線」を提出した。

「日本文学史」の講義では、国学、物語文学、和歌文学、説話文学、御伽の文学、説経節、琵琶法師、言文一致の小説など日本文学史において重要な文学ジャンルの由来や発展が紹介された。「日本語作品講読」の講義では、夏目漱石の「文鳥」、渡辺淳一の「男性の社会進出」、村上春樹の「かえるくん、東京を救う」、太宰治の「令嬢アユ」などの作品を読んだ。各作品の趣旨や問題点について講義中議論されていた。「琉球文学講読」の講義では、『銘苺子』という沖縄の伝統芸能組踊の台本を講読した。琉球文学の古文書資料なので、変体仮名及びくずし字が多く使われている。講義は受講生が変体仮名及びくずし字を現代仮名、漢字に変えたり現代語訳したりする形で行なわれた。

「中国文学概論」は中国小説史について、古代から近現代まで、実際の作品の段落を読みながら概説していた。日本学者の一番新しい研究成果も紹介された。日本人の立場から中国の文学を評価するのはとても興味深くて新鮮なのである。その中、日中両学者の研究成果は共通点も相違点もある。自分の国の文学を理解するには非常にいい参考になると思う。

「日本語文法論」は連語論が取り上げられた。具体的には、物、人、事に対するはたらきかけや、所有、認識、通達、態度のむすびつきなどに分けて、連語論的なむすびつきの性格、連語の構造的なタイプの体系、それらの連関と相互移行、単語のカテゴリカル意味と結合能力、慣用句と連語の関係などが紹介されていた。

「琉球文化」の講義では沖縄各地の祭りが画像を見せながら紹介された。祭りの由来、神さまのすまい、祭りの日及び期間、祭りをつかさどる人、祭りの食と衣、祭りの芸能、祭りのしくみ、内容が詳しく解説された。

二 沖縄見学

あっという間に過ぎてしまう四ヶ月半であるが、振り返ってみると、不思議なのはやっぱりから石垣島まであらゆる地域を回った。数百枚の写真とビデオを再び見ると、すべてが昨日起きたばかりのような気がする。ここでは三箇所を代表として感想を書こうと思う。

去年12月4日に中国、ボリビア、ブラジルから来た研修生と日本人友達と一緒に首里城へ見学に行った。沖縄に来る前、予習として「テンペスト」というドラマを見た。首里城の姿がよく「テンペスト」に出てくる。しかし、実物の首里城の前に来たら、やはりその立派さと親しみに感動した。日本本土の古いお城にあまり見えない真っ赤な色は首里城ではたくさん使われている。中国文化の受容は色で明らかになる。中に入ったら、「中山世土」という看板が飾られている。大変親近感を感じたのは「中山世土」の左側に「康熙二十一年秋八月」と書いてあるのである。「康熙」という人物は中国の清の時代の皇帝である。琉球王国時代の沖縄と清の時代の中国との絆がこんなに近い距離で見られるのは思わなかった。

その後、私たちは糸満市にある平和祈念資料館へ見学に行った。入り口に入ったら、左側の地上のガラスを通して大きな不発弾が目に入った。平和な時代に生まれ育った私が急に戦争との距離が縮んだ気がした。不意にほぼ毎日寮の上の空を飛んでいく米軍基地の戦闘機を思い出した。いつになったら戦争はやっと完全になくなるのかなあ。

今年3月4日から6日まで県費留学生全員は石垣島へ研修に行った。4日の午前、石垣島に着いたら、すぐにビーチクリーンを始めた。いつも沖縄の海のきれいさに感動した私はそのごみだらけの場面に驚いた。空き缶、空き瓶、電球などさまざまなごみが目の前のビーチに集められていた。たくさんの方が分別作業をやっていた。私たちもさっそくクリーン作業と分別作業を始めた。そういうごみは石垣島の人々が捨てたわけではなく、遠い所から流れてきたそうである。世界はこのようにごみを通じて繋がっている。したがって、地球を守るにはせめてごみを勝手に捨てないことから始めようと人々に呼びかけたい。

三 友達

沖縄に来て意外なのはたくさんの人と友達になった。全然関わりのないと思った人々と大親友になった。その経緯は言葉で説明するより写真のほうがもっと説得力があると思うので、以下の「仲良し」シリーズと「世界遺産」シリーズをご覧ください。

今困っているのは帰りたくない。帰ってもまたいつか来るよ！ 皆さん、待っていてね！最後にこういう「困った」チャンスを提供してくださった沖縄県に心から感謝している。



「仲良し」



「世界遺産」



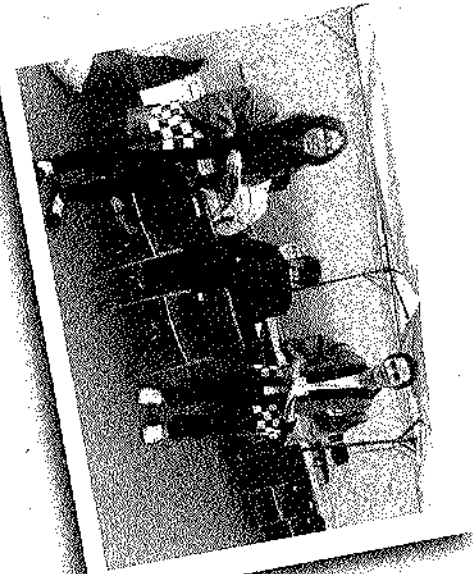
定例会 & 歓迎会



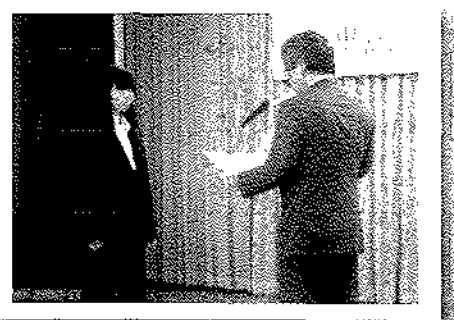
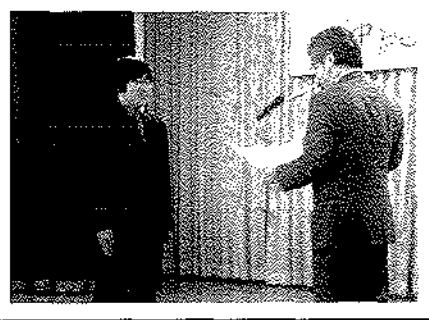
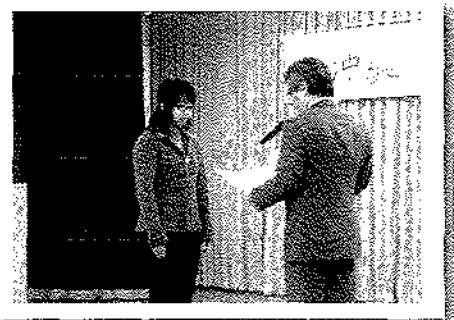
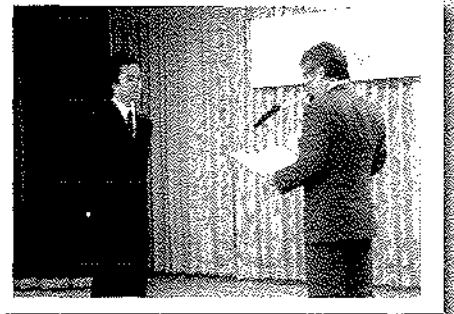
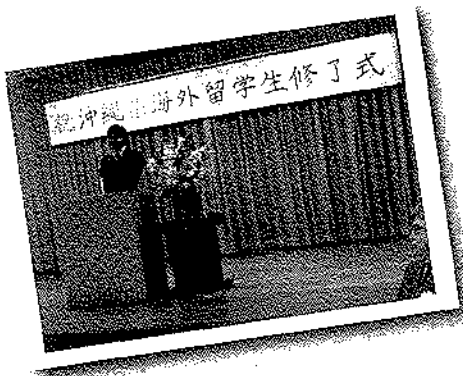
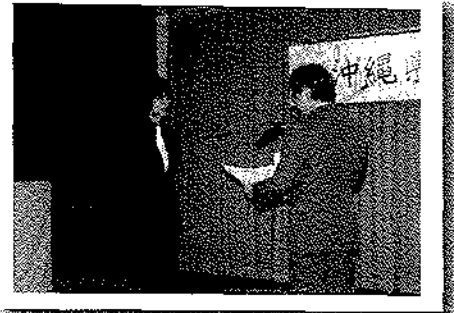
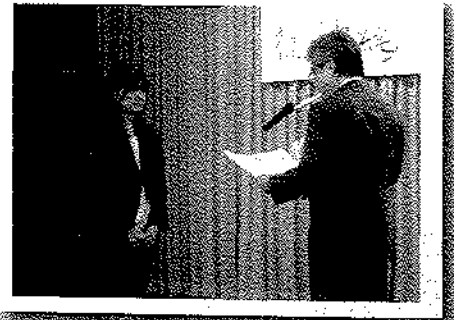
JICA フェスティバル



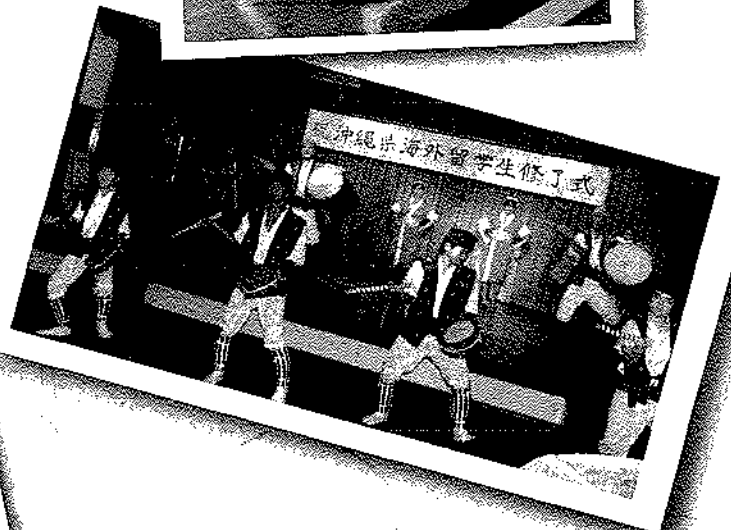
IGA フェスティバル



修了式スナップ写真



修了式スナップ写真



平成23年度 沖縄県海外留学生修了報告書

発行 財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

〒901-2221

沖縄県宜野湾市伊佐四丁目2番16号

TEL : 098-942-9215

FAX : 098-942-9218

